

1. 評価結果概要表

平成 19年 11月 19日

【評価実施概要】

事業所番号	2092700026		
法人名	特定非営利活動法人なかまと		
事業所名	認知症グループホームてととと和合		
所在地	長野県東筑摩郡麻績村日4769-1 (電話) 0263-67-1185		
評価機関名	株式会社福祉経営サービス研究所 サービス評価推進室		
所在地	長野県松本市深志3丁目7番17号		
訪問調査日	平成19年11月16日	評価確定日	平成19年12月27日

【情報提供票より】( 19年 11月 7日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 6月 23日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤8人	非常勤3人 常勤換算9.8人

(2) 建物概要

建物構造	平屋 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000 円

(4) 利用者の概要 ( 11月 7日 現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名	
要介護1	3名	要介護2	1名			
要介護3	4名	要介護4	1名			
要介護5			要支援2			
年齢	平均	84 歳	最低	71 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	玉井医院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは麻績川の清流の音が聞かれ山懐にあり比較的温かいと言われている地にあり、入居者は四季を楽しみながら職員の見守りによる支援のなか自由に過されている。特定非営利活動法人を母体に持ち、宅老所と併設して連携を図りながら入居者の尊厳を保持しつつ住み慣れた地域の中での生活を大切に仲間といつまでも自分らしく輝いて生きていかれるため、職員全員でサービス提供に努められている。なお管理者は認知症介護経験年数が長く、入居者への深い思いを持ってケアにあたられると共に職員の良きスーパーバイザーとして質の向上に努められている。入居者には皆優しい笑顔がみられ、会話も豊富で穏やかに過されている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	今回が開設以来初めての評価にあたるため、この項目は該当しません。
重点項目①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回初めての自己評価にあたり、管理者の指導の下で自己評価及び外部評価の意義や目的を職員全員で理解して、職員全員で評価に取り組まれている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議にあたり入居者(2名)、ご家族(2名)、市町村の職員(2名)、地域包括支援センター職員(2名)、地域住民代表者(2名)ホーム関係者(4名)により開催されている。ホームの取り組みやホームの日課(健康で毎日がおくれる、生活の中に楽しみを取り入れる、一人ひとりの暮らしを大切にしてい、季節感のある生活、地域の人々とのかわりを大切にする、職員研修への取り組み等)が報告をされ意見交換が行われると共に要望を伺われている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	契約時に重要事項説明書に基づき、苦情・相談窓口の説明がされている。なおご家族が面会に見えた時に相談にのられたり、運営推進会議開催の折に意見が述べられる場面づくりに配慮がされている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	職員の見守りにより入居者は自由に散歩に出かけられ、地域の方々と挨拶を交わし会話ももたれている。なお地域の方との交流により農産物等を頂いている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念とは別にホーム独自の分かりやすい理念がつくりあげられている。	○	今後更に法改正に伴い地域密着型サービスとしての役割を考慮した理念(地域生活の継続支援とホームと地域の関係性強化を謳った理念)を抽象的な言葉でとどめず、明確に言語化されることを望みます。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム理念についてミーティングや朝夕の引継ぎ時に話し合わせ、理念に沿ったケアの実践に向け日々取り組みが行われている。訪問時職員よりホーム理念をお聞きすると共に、日常的にケアに活かす努力をされている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎月地域の中学生在が訪問し、学校生活の場面々を拡大写真にしてホーム廊下に掲示されている。また短大生の実習の受け入れも積極的に行っている。なお保育園や中学校の文化祭へ入居者が作成した貼り絵を展示して頂き、見学されている。ホームで開催する夏祭り(ソーメン流し等)に地域の方々が協力参加されている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ホーム開所以来初めての自己評価を職員全員で話し合わせ作成されている。サービス評価結果を全職員で共有し、気づきや改善点について今後日々のケアサービスの質の向上にむけ活かして行かれる旨を伺った。		

認知症グループホームてととと和合

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、ホーム理念を提示してホームの取り組みについて説明すると共に、ホームの日課について報告し出席者へ理解を得る取り組みがされている。なお今後、外部評価結果を基に関係者の方々と検討し、より良いサービス提供に向け努めていかれる意向を伺った。		
6	9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に出席して頂き意見を頂くと共に、行事や防災訓練に参加依頼がされている。	○	今後、ホームの専門性を活かし認知症予防教室等を積極的に受諾し地域の方々との交流を図り、ホームへの理解を頂くと共に、入居者への質の高いケアに繋がるよう期待します。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	居室担当者により月1回の便りを届けると共に、出納帳のコピーを送付し金銭報告をされている。なおご家族訪問時入居者の近況報告等もされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議やご家族訪問時に伺った要望等について職員間にて話し合わせサービス提供場面に反映されている。なおご家族と職員とのより良い関係作りに努められ、ご家族よりの意見の表出に配慮されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	居室担当者変更は年2回程度とし、職員全員で入居者に関わり職員間の連絡を密にとると共に、馴染みの関係を大切にされている。またやむを得ない理由等により、離職者が出た場合に備え日頃より顔なじみの関係づくりに配慮されている。		

認知症グループホームてととと和合

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験年数や資格取得等による力量に合った研修の機会が設けられ、研修会に積極的に参加されている。なお研修後復命書を提出し、ミーティングの折に報告をして周知が図られている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域に同業者が無く交流の機会がないが、職員が研修へ参加された際、参加者との情報交換がされている。	○	管理者は他法人事業者等との交流や連携の必要性を認識されており、近隣地域の同業者との交流や連携を図り、サービスの質の向上に努められることに期待します。
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者がご家族とホームに訪問見学し、すでに入所されている近隣の方等の馴染みの関係により、安心感が得られスムーズな入居に繋がるケースがある事を伺った。なおやむを得ず緊急に入居される場合におかれても、知人への来所依頼により安定を図られる配慮がされている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の生活暦を把握周知し、日々のサービス提供場面の中で話題にとりあげ共感を持ってあたり共に向かい合う取り組みがされている。野菜づくりの一場面におかれても経験豊富な入居者に教えられる等、共に過ごし支え合える関係づくりへの配慮がされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者の希望や要望等を伺うと共に、意思の表出が困難と思われる方には日常生活の中で意思疎通の図りやすい場面(入浴時・外出時・夕食後等)づくりに配慮されている。日常的に入居者の様子、表情等により理解に努められている。なおご家族よりの聞き取りも行われている。</p>		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画作成にあたり入居者やご家族の意見・要望を伺うと共に、日常生活の中で状態把握をし、朝夕の引継ぎ時等を活用して職員全員の意見を反映されている。</p>	○	<p>今後更にアセスメントを含め職員全員で意見交換やモニタリングを行いカンファレンスをして、入居者が住みなれた地域でその人らしく暮らし続けることの出来る介護計画が作成されることを望みます。</p>
16	37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>日常生活の支援の中、常に職員間で情報の共有を図り、入居者に状態変化が見られた折には、ご家族・主治医等関係者を含め介護方針について検討され見直しが行われている。</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>併設の宅老所を利用しながら在宅で過ごされている認知症の方が、在宅での生活が限界になり馴染みの環境へのスムーズな受け入れの支援が行われている。ご家族からの要望に沿った医療機関への受診が行われている。なお服薬管理についても主治医と相談し対応がされている。</p>		

認知症グループホームてととと和合

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族・関係者等の希望により主治医への受診の支援が行われている。なお受診の際の通院介助については、ご家族又は職員による対応がされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者の重度化に伴い早期にご家族、主治医と話し合いを持ち、入居者、ご家族の意向を第一に考慮した方針により全職員で対応が図られている。	○	今後さらに入居者の安全と安心を確保し入居者、ご家族の要望に沿うことが出来るよう医療との連携体制作りとチームで支援が出来る取り組みの構築に期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ミーティング時において入居者への日々の関わり方(声掛け方法・言葉遣い等)について話し合わせ職員の意識の向上に努められ、入居者に不快感を与えることのないよう配慮した支援がされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの基本的流れはあるものの入居者の状態や思いに配慮しながら対応がされている。 (散歩・体操・早口言葉・歌等)		

認知症グループホームてととと和合

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の嗜好を把握し、調理、盛り付け等職員と一緒にいき、職員と同じテーブルを囲み会話をしながら楽しく食事を取られていた。(訪問日には殆んどの入居者が参加してお饅頭を沢山つくって下さり、形・中身について昔話に花が咲きました)時には希望により少量のお酒を飲める支援もされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望する日時に入浴は出来ていない。しかし入浴を拒まれる方には、タイミングをみての言葉掛けにより気持ちよく入浴ができる支援に配慮がされている。	○	入居者の希望に合わせた入浴支援が行えるよう、取り組みに期待します。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の得意分野や力量を把握し、食事づくり、菜園、掃除、洗濯物干し・たたみ、入浴後のドライヤー掛け(入居者同士)、季節の漬物等経験を活かした場面づくりに配慮されている。なおぶどう狩り、外食(蕎麦・寿司)、白鳥見学等季節に応じた楽しみごとの支援に取り組まれている。		
25	61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームは山間の地にあり、入居者はホームを自由に出入りが出来、職員の見守りにより自由に散歩に出かけられ地域の方々との会話や季節の移り変わりを楽しまれている。また職員と楽しく買い物にも出かけられている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけない暮らしの大切さを認識されており、日常的に見守りの支援の徹底が図られており、訪問調査時において玄関に施錠はされていない。		

認知症グループホームてとと和合

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難経路、マニュアルが作成され地域の方々と一緒に年2回の避難訓練が行われ災害発生時において緊急対策の協力が得られるよう地区長さんを通じお願いし訓練が行われている。	○	今後更に地域の協力体制を頂きながら定期的な訓練を重ねると共に、災害に備え食料や飲料水、トイレ、寒さ対策等の準備が望まれます。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の嗜好の把握をしながらバランスに考慮した献立をたてられ食事内容を記録されている。しかし入居者の一日の栄養摂取量の把握がされていない。水分摂取量については入居者一人ひとりの状況に応じた支援がされている。	○	入居者のバランスの良い栄養摂取の確保に向け、定期的に栄養士等による専門的な観点からチェックをして頂くことを望みます。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には季節に応じた花々が飾られ、入居者がつくられた貼り絵等が飾られている。なお季節柄炬燵が設置され、食事をしたり、テレビを見たり、入居者同士楽しく会話もたれている。また日差しの強い季節には「よしず」や朝顔を植え日光を遮断し暑さ対策をされる等、入居者が気持ちよく過ごせるための配慮に努められている事を伺った。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の思い思いの品(好きな人形や写真、花など)が飾られると共に、ご家族により日用品等使い慣れた品々が用意され、それぞれ居心地よく過ごせる工夫がされている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。